

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成30(2018)年4月1日 日曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台



福島教区で特別授戒会

— 天台宗祖師先徳鑽仰大法会 —



天台宗祖師先徳鑽仰大法会記念 東日本大震災復興祈願法要
天台宗福島教区特別授戒会

祖師先徳鑽仰大法会の一環として営まれている特別授戒会が3月10日、福島教区で奉修され547名の仏弟子が誕生した。また東日本大震災復興祈願法要も併修され、物故者への供養と早期復興を願う読経が会場内に響いた。

会場となった郡山市ユラックス熱海に伝戒大和上の大樹孝啓探題大僧正、随行長の杜多道雄宗務総長らが到着する

と、県内全域から参加した戒弟らが玄関で出迎え、開始前から周辺一帯が法悦ムードに包まれた。

仏弟子となり、世のため人のために生きる

まず第一部とし、午前11時半から東日本大震災復興祈願法要を厳修。導師の矢島義謙宗務所長が早期復興を宝前に祈願し、全員で般若心経を誦誦。福聚教会総本部矢島八重子講師により物故者への供養の詠舞が奉納された。

続いて随行長の杜多宗務総長が挨拶し、説戒師の矢島寛章教区布教師会会長が心構えを授けた。

そして特別授戒会が午後1時より開会され、荘厳された壇上で大樹伝戒大和上の言葉に戒弟一人ひとりが合掌して誓いの言葉を唱和した。また全員に「おかみそり」と、羯磨師の杜多宗務総長、矢島宗務所長から仏舍利が授けられた。

大樹伝戒大和上は、震災から7年経ても今なお復興途上である状況を憂い「仏の力が皆様に授かり、お釈迦様がついて下さっているとの気持ちで過ごして欲しい。新しい力も湧いてくるはず」と励ました。

また矢島宗務所長は「人生にはいろんな苦難がある。しかしながら御仏様を授かったからには自信を持って精進し、忘己利他の精神を実践しなければならぬ。素晴らしい縁を授かった。手を携えて実りある人生を歩んでいきましょう」と呼びかけた。

なお随行員は、水尾寂芳延暦寺副執行、教授師を即真永周延曆寺一山薬樹院住職が勤めた。



大樹伝戒大和上より「おかみそり」を受ける戒弟。新たに仏の教えに生きることを誓った



特別授戒会には、教区内から547名の戒弟が参集、緊張の面持ちで戒を受けた

極微

4月。会計年度の初めの月で、各職場には新入社員姿が見られる。これは日本独特のようだ。欧米などでは、日本のように会計年度開始に入る「新卒社員」という採用形態はなく、雇用は欠員が出たら雇うという通年採用が一般的だそうだ▼日本の大学が企業に就職するための予備校みたいになっているのは、こうしたところに原因があると思うがどうだろう。大学も三年生になると、実質、就職活動の開始だ。表向きは三年生が終わる3月の就職説明会解禁で始まるが、それ以前から就職試験のための予備活動が始まる。だから専門課程に入ってもおちおち勉強などしていられない▼ともあれ4月に無事、新入社員となっても、これからが本番である。学生時代と違って、年齢も経験も様々な人間がいる組織に加わるのだ。どんな心構えが必要なのか。サラリーマンの日常を描いて定評のあった作家の山口瞳さんが半世紀前に『新入社員諸君!』という本の中で「新入社員に関する十二章」という文章を書いている▼いくつか挙げてみる。「無意味に見える仕事も厭がるな」「金をつくるな友をつくれ」「出入りの商人に威張るな」「正しい文字を書き正しい言葉を使え」などである。是非とも社会人一年生に贈りたい言葉の数々だ。社会人として心がける言葉と、いつよりも、人間として肝に命ずべき言葉でもあろうか。